

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
⑪ 公開特許公報 (A) 昭58—113672

⑫ Int. Cl.³
F 16 K 15/06

識別記号 庁内整理番号
6943—3H

⑬ 公開 昭和58年(1983)7月6日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ バルブ

⑮ 特 願 昭56—209724
⑯ 出 願 昭56(1981)12月28日
⑰ 発明者 星野謙三

平塚市代官町16—21

⑱ 出願人 星野謙三
平塚市代官町16—21
⑲ 出願人 星野栄治
平塚市宝町3—10

明細書

1. 発明の名称 バルブ

2. 特許請求の範囲

1) 円面状の弁座を有し、円錐の軸方向に変位し、この弁座によって高圧側と低圧側に流体を仕切り、低圧側の弁ホルダーの内面に接して滑動する弁案内を有し、高圧側にバネを装置して流体を締め切ることを特徴とした逆止弁。

2) 円錐面状の弁座を有し、円錐の軸方向に変位を行なう弁において、弁の高圧側に弁の外筒に固定しがつ案内筒10を装置した案内筒9の案内筒に滑動する円筒11を保持した弁3を有し、かつ案内筒9と弁3との間をバネ8で加圧したことを特徴とした逆止弁。

3. 発明の詳細な説明

本発明は高圧と低圧との差が非常に大きい逆止弁を事故なく作動させるためのもので、高圧ポンプの場合、逆止弁からの漏洩が多くなり、又は逆止弁から水が入らなかったりすることが時々おこる。それは高圧の場合逆止

してある。これを図で説明すると、第1図は弁3は弁ホルダー2の弁座1の円錐面で互に密接して流体を締め切る様になっているが、弁のガイド5と弁ホルダーのガイド4とは低圧側において滑接動しているので高圧側の圧力による弁ホルダーの変形がおこらないので常に正常な相対運動が出来る。又、流体が流入する場合は通路12、13を通り弁を上に押し上げ1の弁座のところから14の通路に流れるが、圧力が高圧側にかかるか、又は流体が一杯になって流入がなくなるとバネ8により弁3は弁座に押しつけられて密着し、4、5の案内装置により接着するバネ8は弁の円筒7とバネガイド8により保持される。又第2図は高圧側に案内筒10、弁の案内筒11が滑動するが、案内筒9は弁ホルダーと独立しているので圧力により変形がないので弁の作動は正常に行なわれ、流体は12の通路より1の弁座を通り15の通路へと導かれる。

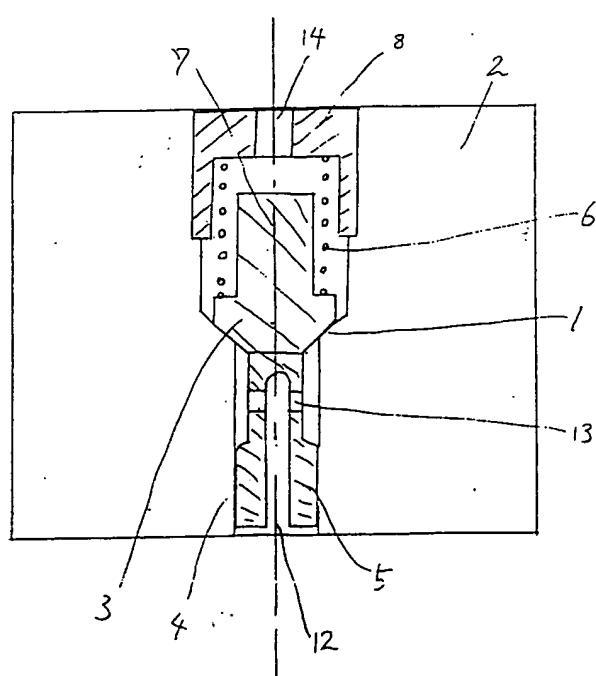
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一例の正面図

第2図はこの発明の一例の正面図

4. 案内 (ホルダー側) 5. 案内 (井側)
 6. パネ 7. 井筒 8. パネ押え 9. 案内
 10. 案内円筒 (案内側) 11. 案内円筒 (井側)
 12. 入口通路 13. 通路 14. 15. 通路

第 1 図



第 2 図

